第 15 回全国校区・小地域福祉活動サミット・オンライン開催要項

1.開催趣旨　**メインテーマ：人とひとのつながりの再構築**

地域共生社会づくりをめざして、社会的孤立に立ち向かい、人とひとのつながりを再構築していくために、住民が主体となった地域の居場所づくりや見守り、支え合い等の様々な活動が全国各地で進められてきました。

しかし、新型コロナウィルスの感染拡大は、人と顔を合わせること、人が集まることを阻み、住民の手によるさまざまなつながりづくりの活動にストップをかけることになりました。一方で、貧困の格差や社会的孤立による生活の課題を浮き彫りにして、人と人とのつながりの大切さを改めて考える機会を与えてくれました。

コロナ禍でも、全国各地で展開されているつながり続けるためのさまざまな工夫やそれを支える専門職の多様な取り組みは、アフターコロナの地域共生社会づくりにも大きな示唆を含んでいます。

これまで、本サミットは、開催地を決め、その地域を中心に実行委員会を組織して実施してきました。今回は、コロナ禍もあり、開催地を特定せずに全国に呼びかけて、実行委員会を組織し実施することとなりました。

全国の活動者の皆さんがオンラインでつながり、今だからできる、今だから必要な校区や小地域における福祉活動について、意見交流し、これからの実践に必要な視点や工夫などの気づきを得ながら、元気になることを目的とし開催いたします。

2.開催日時　2022 年 12 月 11 日（日）　10 時～16 時

3.開催方法・参加方法

・参加対象：校区・小地域福祉活動に関心のある方どなたでも

・オンライン開催

・参加方法：個人またはグループ参加

※グループ参加：市町村単位、または任意のグループ単位で、集合形式でサテライト会場を設置し、参加することができます。各会場内での意見交換をする機会を持つことをおすすめします。

4.参加費

①個人　3,000 円

②グループ単位（10 人以内）で（同一施設・敷地）1 カ所につき 1 万円

11~20 人の場合は 2 万円、以降 10 人ごとに 1 万円追加となります。

(21~30 人　3 万円、31~40 人　4 万円、41 人以上　5 万円)

※同一施設・敷地であれば、会場を複数設営することは可能です。また、会場を分けることで、同時開催の 2 つの分科会を一つのグループとみなします。

参加申込は、https://www.shouhuku.com　へ

5.主催・共催・後援

主催：第 15 回全国校区・小地域福祉活動サミット実行委員会

共催：小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク(代表:牧里毎治　関西学院大学名誉教授)

後援(予定)：社会福祉法人全国社会福祉協議会

6.開催内容（プログラム）

10:00　全体会Ⅰ　開会ご挨拶　オリエンテーション

10:10　基調講演

10:40　休憩（移動）

10:50　分科会パート１

[分科会１] 実践者同士がつながり、認め合い、語り合う分科会

テーマ「コロナでうまれた様々な活動や知恵と工夫を住民同士で語りましょう。」

※参加者同士で討議を行うため、グループで参加する場合には、コンピュータ１台のみでの参加をお願いします。

自らの活動について参加者同士が交流することを目的とする。

テイクアウト、訪問活動、子ども食堂、見守り活動などなどで会えなくてもつながる地域活動が誕生している。全員参加型の仲間どうしで語り合うプログラム。

この分科会への参加希望者はコロナ禍においても取り組んだ自分たちの活動紹介（一枚の写真とタイトル、100 字以内の文章）とともにエントリーしてください。

[分科会２]「新たなつながりづくり、居場所づくりを実現するサロン活動とは」

With コロナ、After コロナの中で地域共生社会づくりを推進するため、社会的孤立、パンデミックに立ち向かう新たなつながりづくり、居場所づくりを、地域住民の気づきと力で実現していくサロン活動のあり方について考える。

1994（平成６）年から全社協が提唱した、仲間づくり、出会いの場づくり、健康づくりのための活動である「ふれあいいきいきサロン」は、地域住民の手で手軽に取り組める活動として全国に広がった。30 年近く経つ現在、市区町村社協の 90%以上がこの活動の推進に取り組み、全国８万６千ヶ所以上で実施される（2018 年実態調査）大ヒットプログラムとなった。

しかし、新型コロナ感染症の流行拡大により活動を休止せざるを得ないサロンが相次いだ。

この分科会では、住民自らが集まることの必然性や重要性を理解し、様々な工夫をしながらサロン活動を再開したり、これまでのサロン活動を基礎に見守り活動や支え合い活動に展開している事例を学ぶ。それによって、地域共生社会づくりを進めるうえで、地域の生活者の視点、ニーズに基づく活動の大切さを再確認するとともに、住民が主体となって進めるサロン活動の次の展開について考える場としたい。

12:30　休憩（移動）

13:30　分科会３・分科会４

[分科会３]「これからの地域づくりは子ども、子育て世代のつながりづくり」

新型コロナウィルス感染拡大により、子どもに纏わる生活課題が深刻化する傾向がある。
コロナ禍においては、特に孤立した子育て環境や不登校児童の問題については、顕著となり、各地域では、子ども食堂をはじめ、小地域福祉活動が培ってきたノウハウを生かしながら、居場所づくりや仲間づくり、つながりづくりが展開されている。
本分科会では、各地で行われている子ども食堂や子育て中の親同士のネットワークづくり、不登校児童の居場所づくり等の実践をお聞きし、今後の活動展開について考える。
子育て支援活動は、親を含む子どもへの支援として展開されている。少子化により子育て世代間での仲間づくりなどが困難となる傾向もあり、実際に孤立した子育て環境が強いられている現状もある。子育ては家族だけの問題ではなく、地域全体で支えていくことを進めるために、子育て世代同士の仲間づくりと合わせて、子育て世代を地域がサポートし、仲間づくりを進めることが今後、必要とされる。子育て世代が主体的に活動する上で重要とする点やサポートする上で重要とする点を実践者同士が理解し、再確認することで、今後、未来につながる活動の展開を考える場とする。

[分科会４]「住民による外国籍の人の支援」

コロナ禍において、多くの外国籍の人たちが生活に困窮し、生活福祉資金特例貸付を申請するなど、改めて地域に暮らす外国籍の人たちの存在や生活課題が可視化された。
今後、我が国に居住する外国籍の人たちがさらに増加し多国籍化することが見込まれるなかで、生活支援の充実を図るとともに、多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、地域社会における交流やつながり、助け合いを広げていく必要がある。
本分科会では、外国籍の人たちが多く暮らす地域で、住民やＮＰＯ、大学等が連携し、様々な課題を解決し、共生をめざしてきた実践をお聞きし、今後の取り組みについて考える。

15:10　休憩（移動）
15:20　全体会Ⅱ　まとめ
・各分科会報告、まとめ
15:55　閉会　　（16:00 終了）

7.発表事例の募集

第 2～４分科会での発表は、全国から募集します。ただし、事例発表は１分科会あたり数例に限られますので、発表者は、実際の活動の担い手にお願いします。事例については、次の項目にしたがって、「実践発表申し込みフォーム」https://forms.gle/wy5tspVQjbN7va41A にてお送りください。応募いただいたすべての団体の活動内容は、サミット当日の資料に掲載させていただきます。
① タイトル、② 団体名、③ 活動の内容・効果（400 文字以内）
応募締め切り:2022 年 11 月 11 日(金)必着

8.お問い合わせ

サミット事務局：特定非営利活動法人　全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町 16-30　シンエイ木町ビル１階

TEL：022-727-8730　FAX:022-727-8737
Mail　action@clc-japan.com
詳細・申込　⇒　https://www.shouhuku.com

第 15 回全国校区・小地域福祉活動サミット実行委員会名簿

秋山詩織	新潟市社会福祉協議会南区社会福祉協議会事務局長補佐	
池田昌弘	全国コミュニティライフサポートセンター理事長	小福ネットメンバー
浦田　愛	文京区社会福祉協議会地域福祉推進係係長	
江部直美	山形市社会福祉協議会相談支援課福祉まるごと支援係	
勝部麗子	豊中市社会福祉協議会事務局長	小福ネットメンバー
佐藤寿一	宝塚市社会福祉協議会・前常務理事	委員長
渋谷篤男	日本福祉大学福祉経営学部(通信教育)教授 全国社会福祉協議会・元常務理事	事務局長 小福ネット事務局長
高橋良太	全国社会福祉協議会地域福祉部長 /全国ボランティア活動・市民活動振興センター所長	小福ネットメンバー
徳弘博国	香美市社会福祉協議会生活相談センター香美所長	
古市こずえ	東海村社会福祉協議会企画総務係総括係長	
牧里毎治	関西学院大学名誉教授	小福ネット代表
山本信也	宝塚市社会福祉協議会地域支援部長	小福ネットメンバー

小福ネット：小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク